

川上ダム通信

2012



独立行政法人水資源機構 川上ダム建設所
〒518-0294 三重県伊賀市阿保 251 番地 TEL : 0595-52-1661 (代)
<http://www.water.go.jp/kansai/kawakami>

第28回青山夏まつり開催

青山夏まつりが7月15日(日)に開催されました。

この祭りは、地域の皆様と触れ合える絶好の機会であることから、当建設所では毎年ブースを出展し、ダムの役割や環境保全の取り組みについてパネル展示を行っています。

また、パネル展示に合わせてその内容に関するクイズを行い、来場者に参加を呼びかけました。

クイズ正解者には職員が手作りした下敷きや水鉄砲をプレゼントしたこともあって、約250名もの親子連れや子供たちに参加していただきました。

子供たちは、クイズの全問正解を目指し熱心にパネルを見ていました。答えに迷っている子供たちには職員が答え探しをお手伝いし、楽しくクイズに挑戦してもらいました。

パネル展示やクイズをとおして、ダムの役割や環境について、子供たちに楽しく学んでもらえたと思います。

最後に、地域の皆様と触れ合えるこのような機会を提供していただいた青山夏まつり実行委員会の方に、改めてお礼申し上げます。

【総務課 湯本洋】



園児たちに夢を 七夕会にプレゼント

当建設所では、青山よさみ幼稚園とさくら保育園に、七夕会で使用する笹90本(青山よさみ幼稚園)と竹15本(さくら保育園)をプレゼントしました。これは、ダム事業用地の自然を活用し、園児たちに夢をプレゼントできるような取り組みとして毎年行っているもので、今年で6年目となります。

七夕会は、青山よさみ幼稚園では7月3日(火)に、さくら保育園では7月6日(金)に開催され、当日はきれいに飾り付けられた七夕飾りと園児たちの笑顔を見ることができました。

当建設所では、これからも地域の皆様との交流を大切に、事業を実施していきます。



青山よさみ幼稚園



さくら保育園

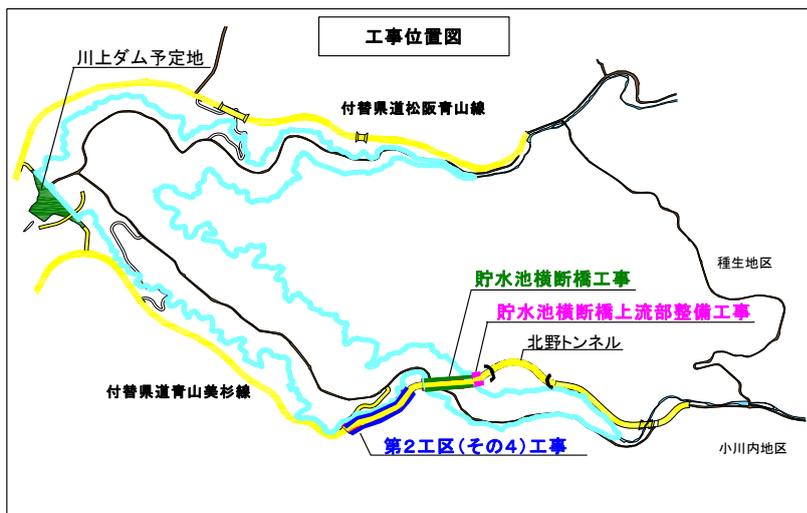
【総務課 竹村尚康】

工事進捗状況

付替県道青美線貯水池横断橋工事

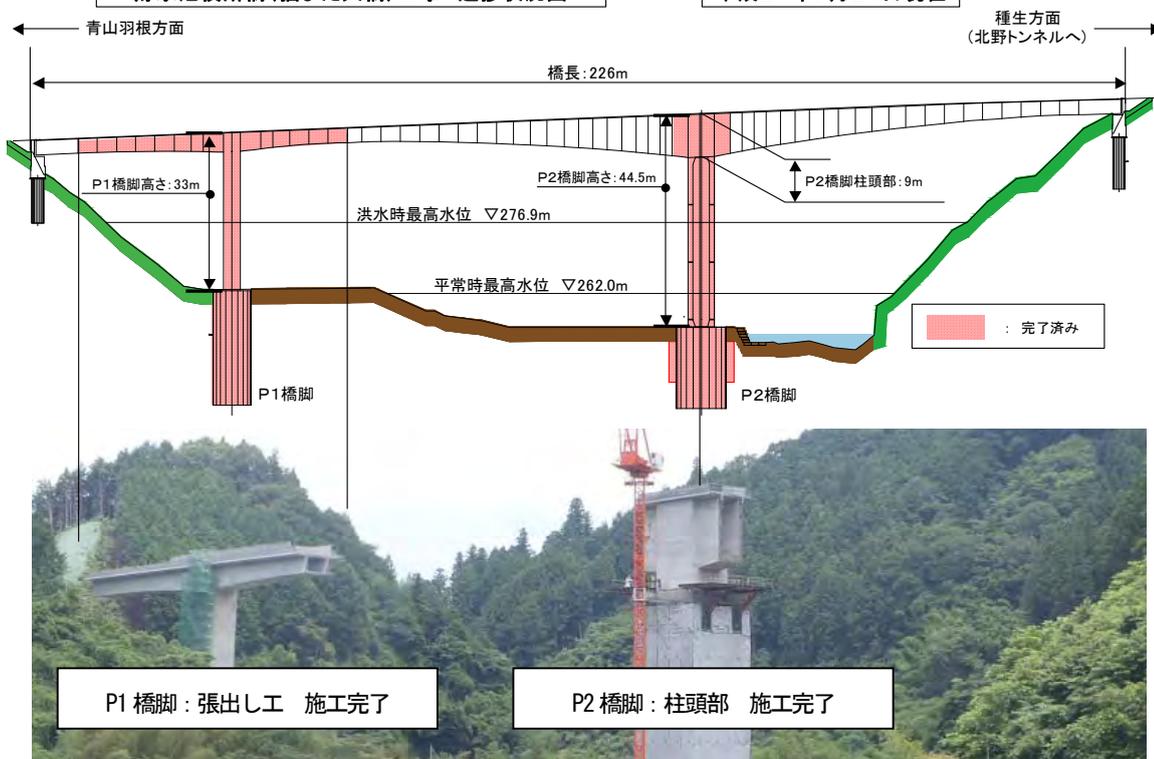
P1橋脚は、張出し施工及びワーゲン（張出し施工を行うための移動作業車）の解体作業が完了しました。P2橋脚の張出し施工が完了するまでの間、このままの状態での作業はお休みとなります。

P2橋脚は、柱頭部施工が完了し、将来道路となる高さまで出来上がりました。現在、張出し施工を行うためのワーゲンの組立作業を実施しています。



貯水池横断橋(猫また大橋)工事 進捗状況図

平成24年7月26日現在



付替県道青美線第2工区(その4)工事

付替県道青美線貯水池横断橋上流部整備工事

上記2件の工事は、測量や伐採作業等の準備作業を完了し、本格的な土木作業にとりかかっています。現在は、掘削作業を実施しています。

次のページに「付替県道青美線貯水池横断橋上流部整備工事」の工事担当者紹介を掲載していますので、併せてご覧下さい。



付替県道青美線貯水池横断橋上流部整備工事

【工事課 廣瀬早苗】

工事担当者紹介

このたび、川上ダム建設事業の青山美杉線付替工事のうち、「付替県道青美線貯水池横断橋上流部整備工事」を受注させていただきました。私は現場代理人の株式会社坂口組の北村と申します。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

弊社は昭和28年9月に創業し、この伊賀地域で数々の道路や河川の改良工事を施工してまいりました。

私自身も、これまでに川上ダム建設事業の付替県道工事をはじめとし、名張青山線の改良工事や前深瀬川の河川改修など同じ伊賀地域で多くの工事に携わっております。



名張青山線の改良工事(伊賀市種生地内 発注：三重県)

本工事におきましては、安全第一を念頭におき、より良いものを作る意識で、県道青山美杉線の早期開通に貢献してまいります。

また、工事の実施にあたりましては、地域の皆様にご迷惑が掛からないように努めると共に、環境保全にも気を配りながら地元企業が作る構造物という責任をもって、施工を進めてまいります。

今後とも皆様方の暖かいご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

【株式会社坂口組 現場代理人 北村尚弘】

井 4 環境用語集

環境用語集第4回目は、^{がいらいしゅ}外来種について説明します。

外来種という言葉は、一般的には、海外から日本国内に持ち込まれた種に対して使われることが多いです。同義語の^{いにゆうしゅ}移入種は、自然に分布するものと同種であっても他の地域個体群から持ち込まれた場合も含まれます。

例えば、愛知県で生育している植物を三重県に移した場合も移入種となります。

外来種は在来の生物種や生態系に様々な影響を及ぼします。中には沖縄のマンガースのように、ハブの駆除を目的として導入された種が、天然記念物である在来種のアマミノクロウサギ、アマミトゲネズミの絶滅を招くような重大な影響を与えるものもあります。

このため、国内では一部で外来種の駆除が進められているほか、外来種対策のための「外来生物法」が平成16年6月に公布されました。翌年6月には生態系等に悪影響を及ぼしていることが明らかな外来種として1科2属39種が「特定外来生物」に第一次指定され、現時点で1科13属91種に対して規制が開始されています。

人間の都合で連れてこられた外国生まれの動植物たちもかわいそうだと思いますが、その外国生まれの動植物によって絶滅の危機に瀕する在来種もあります。外来種を一概に悪とってしまっても良いものなのか、自然界は難しいです。

【環境課 笹原智弘】



青山地区の歴史を訪ねて

当建設所では今年度、「地域を知り地域との交流を深める」ことを事務所目標の1つに掲げています。地元伊賀市、特に青山地区（旧青山町）は、川上ダム及び当建設所の所在地であり、私共職員としても、地域の情報を積極的に収集することで、職員の資質の向上と私共が働くこの地域を知ることに繋がると考えています。

そこで、6月20日（水）に、元青山町職員で郷土史家でもある松本仁志先生をお招きして、青山地区の歴史について学習しました。

松本先生から、当建設所の敷地は「沢代遺跡」の一部となっており、建設前の発掘調査では、古墳時代の住居跡や奈良時代の掘立柱建物跡が見つかったとお聞きし、歴史ある遺跡の上で仕事をしていることを実感しました。

また、当建設所の所在地である阿保地区には、この地区を開拓した第11代垂仁天皇の皇子である息速別命のお墓だと言われている「阿保親王墓」、第45代聖武天皇が藤原広嗣の乱を避けるため伊賀、伊勢を越える行幸の際に一夜を明かした宮居跡とされる「阿保頓宮跡」などが点在し、古代から皇室とゆかりがある地域であることを知りました。

私共職員は、普段は建設所と現場の往復のみで、周辺の歴史に触れる機会がほとんどないため、このように地域の歴史を学ぶ機会を持てたことは大変有意義だったと感じています。

最後に、地域の歴史について解説していただいた松本先生に、本紙面を借りて改めてお礼申し上げます。ありがとうございました。

なお、次回9月号から松本先生の御厚意により青山地区の歴史シリーズの連載を予定しています。どうぞご期待下さい。



阿保親王墓



阿保頓宮跡

【第二用地課 中村利行】

編集後記

長かった梅雨もようやく終わり、夏がやってきました。
夏は、大人にとっても子供たちにとっても、楽しいイベントが盛りだくさんです。
熱中症に注意しつつ、たくさん楽しい思い出を作りましょう！

【広報誌発行事務局】

編集長 神矢（所長）
デスク 大友（総務課長） 田中（工務課長）
記者 湯本（総務課） 松高（第二用地課）
本田（調査設計課） 笹原（環境課）
廣瀬（工事課）

皆様からのご意見・ご感想をお待ちしています。
ハガキやメール等でどしどしお寄せ下さい。

宛先 〒518-0294 三重県伊賀市阿保 251 番地
独立行政法人水資源機構 川上ダム建設所
メール somu1@lily.ocn.ne.jp
◇川上ダムは ISO14001 を取得し、環境安全を推進しています。



ISO14001: 2004
JQA-EM5769